

伊藤忠商事は挑戦と変革を更に加速し、収益力の更なる強化を図っていきます。自由闊達、そして「個」の力を最大限発揮できる風土を醸成し、当社が継承してきた「現場力」を再強化し、皆様にとって魅力溢れる企業を目指してまいります。

代表取締役社長 岡藤 正広



#### 岡藤 正広

##### 代表取締役社長

1974年4月  
伊藤忠商事株式会社入社  
1997年4月  
同社 アパレル第三部長  
2002年4月  
同社 ブランドマーケティング事業部長  
2002年6月  
同社 執行役員就任  
2004年4月  
同社 常務執行役員就任  
繊維カンパニー プレジデント  
2004年6月  
同社 代表取締役 常務取締役就任  
2006年4月  
同社 代表取締役 専務取締役就任  
2009年4月  
同社 代表取締役 副社長就任  
2010年4月  
現職に就任

## 「稼ぐ」「削る」「防ぐ」の徹底で目標達成を目指す

2010年4月、代表取締役社長に就任しました岡藤正広でございます。当社のミッションである「豊かさを担う責任」を胸に、企業価値の持続的向上に向けて、強い決意で経営に臨む所存でございます。

2010年3月期の世界経済を見ますと、年度前半は2008年度からの世界的景気後退の影響がありましたが、年度後半からは各国の大規模な経済対策や金融緩和政策の効果により、緩やかな回復基調となっております。伊藤忠商事の当期業績については、主に上期における資源・エネルギー価格をはじめとする市況低迷と、实体经济の不振の影響を受け、売上総利益は前期比13%減の9,244億円となり、当社株主帰属当期純利益は前期比23%減の1,282億円となりました。

当社は、中期経営計画「Frontier<sup>e</sup> 2010」（2010年3月期から2011年3月期まで）を推進しています。その初年度である当期は、頂新（ケイマン）ホールディングへの出資完了や、ブラジルNAMISA社の早期収益化実現等、成長市場における地歩を固めながら、世界経済の本格回復後を睨んだ数々の新規戦略投資も実行しました。L-I-N-E-sの領域では、環境・新エネルギーやライフケア分野等、将来の伊藤忠商事を支える収益源の育成が着実に進んでいます。一方、連結株主資本の充実と有利子負債のコントロールにより、NET DER 1.6倍へと目標を上回る改善を果たし、財務基盤の強化を実現しました。「Frontier<sup>e</sup> 2010」の最終年度である2011年3月期は、売上総利益1兆800億円、当社株主帰属当期純利益1,600億円という目標を掲げました。「稼ぐ」－収益を拡大する、「削る」－経費を削減する、「防ぐ」－損失を回避する、を経営の三原則とし、その徹底を通じて目標の必達を目指します。

## 現場力の再強化

世界同時不況により経営環境は一変しました。当社も経験則では推し量ることができない大きな変化の荒波の中にあります。今後、グローバルマーケットで勝ち抜いていくためには、過去の延長線上ではなく、時代の変化に合わせてやり方を変える必要があるのは自明です。伊藤忠商事は、従来にも増して挑戦と変革を続け、収益力の強化を進めてまいります。そして、そのために当社が継承してきた「自由闊達」の社風を取戻し、「現場力」を再強化していきます。当社本来の強みである「個」の力の真価を発揮し、必ずや強い伊藤忠商事をご覧に入れます。

私は、このたび先人達が150余年に亘り繋いできた伝統という「櫛」を受け継ぎました。その「櫛」を未来永劫繋いでいくために、全社一丸となって取組を進めていきます。

全てのステークホルダーの皆様におかれましては、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2010年7月